

News Release

日本をおいしくする

SHOWA

昭和産業株式会社

経営企画部

コーポレート・コミュニケーション室

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
(鎌倉河岸ビル)

TEL. 03(3257)2042 FAX. 03(3257)2097

<http://www.showa-sangyo.co.jp>

平成28年5月13日

昭和産業株式会社 平成28年3月期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の平成28年3月期連結決算は、売上高2,478億23百万円、経常利益89億77万円となりました。平成29年3月期連結業績予想については、売上高2,450億円、経常利益98億円を見込んでおります。

【平成28年3月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、政府による積極的な財政出動と日本銀行との協調によるデフレ脱却政策および経済成長戦略が実行されておりますが、個人消費の低迷や金融市場の動揺がみられ、また、中国経済の減速や世界的な地政学リスクへの懸念など、世界経済の成長に対する下振れリスクが増大する状況が続きました。

食品業界においては、原材料価格の変動などによる製品価格の改定も発表されており、依然として厳しい経営環境が続いております。また、平成27年10月に大筋合意したTPP（環太平洋経済連携協定）は、当社グループを含む食品産業全体への影響が想定されることから、引き続き動向を注視してまいります。

このような状況の中、当社グループは、2012年（平成24年）よりスタートした「中期経営計画12-16」が4年目に入り、最終年度の目標である連結売上高2,680億円、連結営業利益、連結経常利益ともに100億円の達成に向け、6つの基本戦略「①基盤事業の持続的成長」「②新たな分野への挑戦」「③海外事業の強化」「④効率化の推進」「⑤グループ連携の強化」「⑥CSR経営の推進」の各種施策の推進に努めてまいりました。

当連結会計年度においては、引き続き「①基盤事業の持続的成長」の基礎となる販売物量の拡大を推し進めるとともに、原材料価格等に見合った製品価格の適正化に努めてまいりました。

研究開発においては、社内各所に分散していた「研究」「開発」「技術」の活動拠点を一か所に集約した「RD&Eセンター」（千葉県船橋市）の建設に着手いたしました。当社の強みである多様な穀物資源を生かした総合力をさらに強化するとともに、お客様とのコミュニケーションの場として、昭和産業グループならではのソリューションをご提供することを目指してまいります。

また、当社100%子会社であるグランソールベーカリー(株)が運営を行う、(株)セブン-イレブン・ジャパン向けの「冷凍パン生地工場」の建設にも着手いたしました。

「④効率化の推進」においては、鹿島工場等生産部門を中心にローコストオペレーションを推進いたしました。

一方、発送費の増加等により販売費及び一般管理費が、前年同期に比べ1,203百万円増加いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の経営成績は、連結売上高は247,823百万円と前年同期に比べ2,711百万円（1.1%）の増収となりました。営業利益は7,951百万円と前年同期に比べ809百万円（11.3%）の増益、経常利益は8,977百万円と前年同期に比べ869百万円（10.7%）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は5,941百万円と前年同期に比べ653百万円（12.4%）の増益となりました。

【平成29年3月期連結業績予想】

国内経済情勢につきましては、政府及び日銀の金融政策、財政政策等により緩やかな回復基調が期待されるものの、引き続き海外経済の弱さや地政学リスクへの懸念などにより、先行き不透明な状況が続くとみられます。

当社グループは、穀物の一次加工を主な事業としており、小麦、大豆、菜種、とうもろこしなどの穀物原料相場や為替相場の影響を受けます。今後も穀物原料相場や為替相場は不安定な状態が続くとみられ、当社グループを取り巻く経済環境は引き続き厳しい状況が予想されます。

このような状況において、当社グループは、平成24年4月より5ケ年計画「中期経営計画12-16」を開始し、当社グループの持つ多様な事業の将来ビジョンを描き、成長戦略を遂行することで厳しい経済環境に対処してまいります。

平成29年3月期の業績は、連結売上高2,450億円、営業利益92億円、経常利益98億円、親会社株主に帰属する当期純利益71億円を見込んでおります。

以上

この件に関する報道関係者の方からのお問合せ 昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室（久慈、久田）まで TEL：03-3257-2042 FAX：03-3257-2097
